独立行政法人国立病院機構
南岡山医療センター
広報誌

〒701-0304 都窪郡早島町早島4066
TEL.086-482-1121

発行日／平成30年5月
発行所／独立行政法人国立病院機構
南岡山医療センター
責任者／谷本　安

そよかぜ

2018年5月　Vol.25
春号

病院の理念

私たちは
「ゆるぎない信頼、心からの満足」
をしていただける病院を目指します。
人としての尊厳を重視した上で専門医療（国の定める政策医療）に誇りをもち、地域の皆様が安心して心身ともに癒される医療を受けていただけるよう全力を尽くします。

CONTENTS

新任挨拶 ……2・3
病棟の紹介　つくし病棟 ……4
平成29年度結核診療連携拠点病院研修会開催 ……5
最後のアレルギー疾患講演会開催 ……6
障がい者への虐待防止に向けて ……6
第2回　糖尿病食事会を開催しました ……7
ボランティア感謝状贈呈式 ……7
健康一番　マラソン奮闘記 ……8

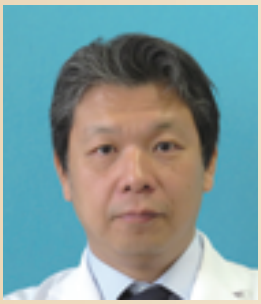
新任挨拶

副院長　吉永　治美

新年度から、定年退職された井原副院長の後を継いで、副院長に就任いたしました。

私は昨年のそよかぜにおいて、つくし病棟と通園施設つくし園を担当する特命副院長として南岡山医療センターに赴任したご報告をしたばかりです。

そんな私に、30年以上の長い期間に当院に勤務されて、宗田名誉院長が院長でいらした時から副院長として二代にわたる院長とともにこの病院を支えてこられた井原副院長の後継が、とても務まるとは思えませんが、新事務部長、新看護部長をはじめとしして、院内の多職種の方々、地域の医療、福祉の方々からも色々アドバイスや情報を収集することに努めて、地域に根付いた南岡山医療センターを確立するために邁進いたしますので、引き続きよろしくお願いいたします。



呼吸器アレルギー内科　医長　本多　宣裕

平成30年4月1日付で、呼吸器、一般内科の医師として就任しました本多宣裕でございます。

平成9年に川崎医科大学を卒業後、川崎病院で呼吸器内科として勤務し約10年間は呼吸器内科を専門として勤務をしていました。平成20年に腫瘍治療の研鑽を積むため岡山大学第2内科に入局し平成29年に岡山大学大学院で学位を取得しました。平成25年に埼玉医科大学国際医療センターで腫瘍内科として1年間勤務したのち、岡山の川崎医科大学総合医療センターで肺癌を中心としたの診断治療に従事していました。

南岡山医療センターでは呼吸器疾患を中心に診療を行うことになりますが、呼吸器疾患のみならず周辺地域住民の方々の診療にお役に立てるように頑張っていきたいと思っております。宜しくお願い申し上げます。

事務部長　嘉数　和俊

この度、4月1日付で高松医療センターから転勤してまいりました。眼下に吉備の里を一望できる自然豊かな環境の中で、また、充実した施設・設備の中で働けることを大変うれしく思っています。皆様どうかよろしくお願い致します。

その一方、医療環境が益々厳しさを増す中で、この立派な施設を維持していくためにはどうすればよいか、健全経営のためには何が必要かなど、考えれば考えるほどその重責に身の引き締まる思いでおります。

当院は病棟・外来棟新築後の設備関係費増加により、この数年赤字経営の状態が続いておりますが、各職場で職員一人一人が経営改善の意識を持ち、取り組んできた結果は確実に実を結びつつあると思います。業績も若干ですが回復基調にあります。

今後更に、変化し続ける医療をとりまく環境に対応し、健全経営を成し遂げていくために、常に先を見ることを忘れず、様々な視点から物事を考え、停滞せずに成長し続ける為の新しいアイデアを提案していく必要があります。

日々、献身的に働かれている皆さんが、医療・介護の業務に集中出来る環境を引き続き維持向上していけるよう、南岡山医療センターの一員として精一杯頑張りたいと考えていますので、どうかよろしくお願い致します。

看護部長　渡邊　真紀子

皆様、はじめまして。平成30年4月1日付で大島青松園より南岡山医療センターへ着任いたしました渡邊真紀子でございます。

役割や機能が異なる国立ハンセン病療養所から2年ぶりに国立病院機構に戻ってまいりました。今、まさに国立病院機構の病院経営の危機的状況をひしひしと感じております。安定した経営基盤を支えていくためにも当院の歴史や物語を知るとともに理念に積極的にコミットし、自分自身の役割を結びつけることが必要だと考えています。当院の理念である「ゆるぎない信頼・心からの満足」の方針通り、看護職員が生き生きと働き続けられる職場環境を作っていくことが果たすべき役割の一つです。また、ミッション達成に向けて、医師・看護師・メディカルスタッフ等の院内連携だけでなく他の医療機関や多職種の連携など様々な情報共有、啓発が必要であると認識しています。今年度の看護部は、「患者中心の看護を考え、心のこもった看護を提供する」を目標にあげ、南岡山医療センターの職員として何ができるのか。看護職員一人ひとりが組織の一員として、患者さまにとって最善の看護を実践し続けることを期待しています。看護部のリーダーとして「患者さまを大切にやさしい看護」の精神を大切に、職員の皆さんと共に組織にしっかり貢献していきたいと考えています。平成16年度に小児アレルギー・慢性疾患の研修で当院を訪れた時、当時アイドルであった“みなみくん”の存在が印象深く残っています。今は、癒し課課長として患者さまに心の安らぎを感じて頂いており、懐かしい言葉を耳にしながら「これも何かの縁」を感じております。

微力ではありますが、皆様にご指導・ご助言を頂きながら、誠心誠意取り組んでいく所存ですのでよろしくお願いいたします。

病棟紹介
つくし病棟

つくし１病棟　看護師長　濵西　由美

つくし病棟は、つくし１病棟と、つくし２病棟の２つの病棟で構成された重症心身障がい児（者）病棟です。重症心身障がい児（者）とは、重度の知的障害と身体障害を併せ持つ患者さんで、ほとんどの方が長期療養目的で入所されています。入所者の方は、7歳から６０歳代と幅広く、ご自分の思いをうまく話したり、伝えることができない方がほとんどで、看護師は、表情や、患者さんの発する小さな変化から、訴えを読み取る力が必要とされます。わずかな変化から欲求や痛み、苦しみを把握できるよう試行錯誤を繰り返しながら、入所者の方の個性や好みに応じたケアを提供できるようにしていきたいと思っています。また、入所者の方が季節の変化を感じられるようなイベントを企画し、つくし病棟での生活がより豊かになる様、関わっていきたいと思っています。

入所者の方の中には、支援学校に在籍している方もいらっしゃいます。学校の授業は、重症心身障がい児の成長発達には欠かせないものであり、早島支援学校との連携も重要です。毎月１回、会議をもち、生徒の皆さんに合わせた効果的な授業の取り組みについて、医師・教員・看護で検討をしています。

近年は入所者の方の医療度、重症度が高まっている中、看護師はより医療的な知識や技術を高めていくことが求められていると思っています。そのため、たえず学び続ける姿勢をもっていきたいと思っています。そして、医師、薬剤師、心理士、栄養士、理学療法士、作業療法士、臨床工学技士、保育士、児童指導員、療養介助員、看護助手など多職種が連携して、お互いの専門性を発揮し、チームで入所者の皆さんを支え、ご家族の方にも満足していただけるよう、より質の高いサービスの提供を目指しています。

平成29年度結核診療連携拠点病院研修会開催

診療・業務支援顧問　河田　典子

平成30年2月8日(木曜日)、三木記念ホールにて平成29年度結核拠点病院研修会が開催され、県下から医師、看護師、臨床検査技師、保健師等幅広い職種から計208名の方が参加されました。

今回は、「結核の早期診断と治療完遂を目指して」というテーマで、結核予防会研究所の御手洗聡先生による講演「最新の結核菌検査と耐性菌の現状について」と、南岡山医療センターから「当院における結核患者および結核菌薬剤耐性の動向」と題して報告を行いました。

結核患者は減少傾向とはいえ、高齢者の方を中心に日本では年間17000人余り（2016年）の新規患者発生があり、罹患率（人口10万対）でみると14前後とまだ中蔓延の状態です。また、最近の動向として、高齢者の方だけでなく20歳代の若年者の発生が増加しており、その半数以上が外国出生の方で、ほとんどが中国、フィリピン、ベトナムなどのアジアからの留学生、研修生です。これらの国の結核罹患率は高く、いわゆる高蔓延国に当たります。

岡山県の状況をみますと、結核罹患率については10.9(2016年)と比較的順調に低下していますが、相変わらず高齢者の割合が高いため発見の遅れがみられることがあり、施設内感染等の問題も生じています。さらに以前は大都市に多かった外国出生の結核患者も、昨今の人口減少・労働力不足の影響で岡山県においても漸増傾向にあり、健診方法や円滑な治療完遂をめぐって新たな問題となってきています。

以上の現状を踏まえて、御手洗先生から結核診療に関する最新の情報を日本のみならず世界、特にアジア・アフリカでの蔓延状況と薬剤耐性菌の増加について豊富なデータをもとに概説していただきました。また、結核の検査方法に関して、細菌検査やIGRA検査など各検査の特徴とその使用や解釈に当たっての注意点、今後期待される新技術についても幅広く取り上げていただきました。

結核は早期診断がなかなか困難な疾患であり、まずは結核を疑うことから始まり、的確な検査を行うことによって迅速な診断を行い、患者さんへの時宜を得た治療を行うことが肝要です。またそうすることによって周囲への不要な感染を防ぎ、地域での結核感染を防止することができます。

研修後のアンケートでも、今回の講演内容をもとにさらなる診断技術習得ならびに具体的な事例検討の要望が数多く出され、結核診療への関心の高さを改めて痛感いたしました。

今冬は寒さが厳しくまたインフルエンザが猛威を振るっていた中、2時間余りにわたり熱心に研修に参加していただき、大変有意義な研修会になったことを感謝いたしております。

今後とも引き続き結核診療拠点病院として、皆さまのご要望に沿った研修を行っていきたいと存じます。

最後の アレルギー疾患講演会　開催

名誉院長　宗田　良

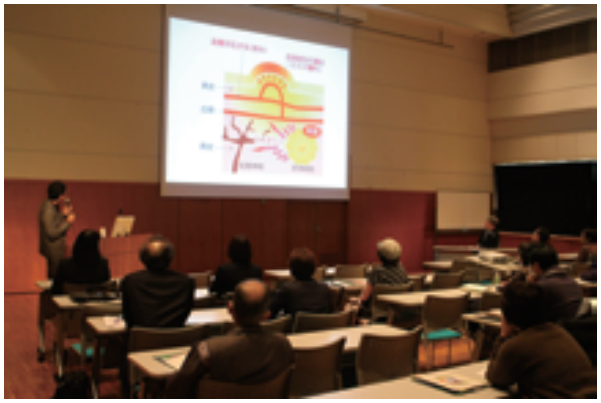
２月２５日、今年は例年になく寒さがまだ残るなかで、アレルギー疾患講演会をアレルギー協会中国支部との共催で実施いたしました。

この会は、南岡山医療センターをアレルギーのメッカにしたいという強い思いのもと当時、岡山大学第二内科教授であった木村先生と前院長の高橋先生のリードで平成５年から始まり、毎年かかさず２月のアレルギー週間の頃に開催をしてきました。

今年はアレルギー疾患対策基本法が施行される年でもあることから、来年度からの岡山県でのアレルギー対策を岡山県庁の山野井課長に講演をしていただき、続いて“じんましん”について藤原医長、アレルギー食について伊東栄養管理室長からとつづき、最後に、“子供のアレルギー”ということで、岡山大学の池田教授に講演をしてもらいました。

参加者も１０９名と例年より多く参加していただき、また、引き続きの開催を求める声も多く聞こえておりました。

さて、表題にあります様に、“最後のアレルギー疾患講演会”とした理由は、先ほどふれた様に、来年度からは岡山県でのアレルギー対策の一環として、アレルギー拠点病院が定められ、拠点病院を中心として、いろいろな対策が講じられることとなります。



当南岡山医療センターがその拠点病院となる事は、まだ確定していませんが、ほぼ決定と言ってもよい状況だと思います。

そして、拠点病院事業の第一弾として市民、県民向けの講演会を実施することとなり、従来の形はこれで終了といたします。

アレルギー疾患はありふれた病気ですが、それゆえに多くの間違った情報が流れている様です。これからは、当南岡山医療センターが中心となって、アレルギー疾患対策が行われるよう皆様にもご協力をお願いします。

障がい者への虐待防止に向けて

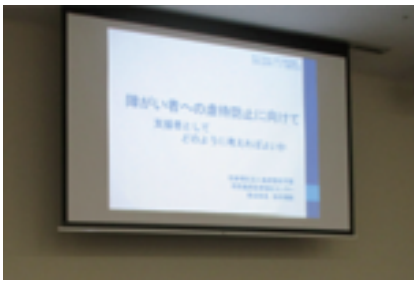
～支援者としてどのように考えればよいか～

療育指導室長　峯石　裕之

当院大会議室で２月１５日（木）、西部島根医療福祉センター阪田健嗣先生をお招きし、障がい者虐待防止研修が行われました。

サービス事業所における虐待発生要因は、虐待をした「個人の要素」よりも、「組織的要因」が大きい、再発を防止するには組織としてどの様に動けば良いか等、実践的な例を多く挙げてわかりやすく語られました。

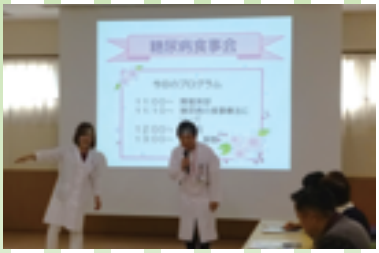
参加した職員からは大変参考になると好評でした。意識改革のために繰り返しの研修が大切だということを自覚するとともに、ひとりひとりの利用者様を尊重することがだと再認識させられました。



第2回　糖尿病食事会を開催しました

栄養管理室　管理栄養士　森廣　真菜

3/28（水）に糖尿病食事会を開催しました。今回は第2回目で、リピーターや初回の様子を見て興味をもってくださった方など合わせて11名が参加されました。年齢層は10代から70代と幅広く、偏りの少ない食事をとる必要性や目安量などについて熱心にメモをとり積極的に質問される姿が見受けられました。



今回のメニューは肉うどん！栄養指導をしていると昼食に麺類を食べる患者さんの多いこと多いこと。自分にあった量を食べているのでしょうか？事前にお聞きした身長をもとに標準体重や必要なエネルギー量を求め、うどんの量を伝えたところ「うどん１玉以上も食べられるの？」「そんなに食べないよ～」という声も。ただしうどんと一緒に食べるものを聞いていくと天ぷらやかき揚げの名前がちらほら…。糖質と油ものを一緒にとると食後血糖が下がりにくいので食事の組み合わせも大切です。肉うどんの他に菜の花の和え物や筍の木の芽和えなど季節の野菜を用意し食事のバランスと旬を感じていただきました。

教室の内容以外にも日頃の知りたいこと、鬱憤などを管理栄養士にぶつける！
疑問が解消されるとなるほど～と
納得されていました。

うどんはその場であたため、汁も
火にかけて提供。ホテルの食事みたい
と言っていただけました。
必要なうどんの量をもとに計量中…
うどんは1本10gくらいあるんだ～

今回最も白熱したのは味付けについて。塩分制限を必要とする人は1食あたりの食塩相当量を約2gに抑える必要があります。特別な塩分制限はしていませんが肉うどんにしっかり味があるため副菜を薄味にしていますが「こんなに薄いんじゃ食べられないよ」「1食2gなんて無理」という意見もありました。そういった方は今回の食事会を通していかに日頃食べているものが濃いのか気づけたと思います。まさに『百聞は一見にしかず』！

実際の味付けは食べてみないと分かりません。皆様も食生活の見直しや味付けの目安を知るきっかけに食事会への参加をしてみてはいかがでしょうか。

ボランティア感謝状贈呈式

療育指導室　保育士　目次　愛香

平成30年3月8日に平成29年度ボランティア感謝状贈呈式及び懇談会を開催いたしました。

当院では13団体、8個人がボランティア活動をされています。活動内容は、音楽活動、本の読み聞かせ、縫製作業、総合案内、敷地内の草刈りなど幅広い活動をしていただいています。

今年度つくし病棟つくし園では、車いすダンス、マジックショー、川崎医療短期大学医療保育科の学生によるオペレッタなど、新たな活動が増え、患者様に充実した時間を過ごしていただくことができました。

当日は、7団体、1個人の出席があり、谷本院長による感謝状の贈呈が行われました。贈呈式後には、懇談会も行われ、出席された方々から当院に対する様々なご意見やご要望などをお聞きすることができました。また、院長からはボランティアの皆様による幅広い活動が患者様と地域・社会を繋ぐ大切な懸け橋のひとつになっていること、患者様の充実した生活に繋がっていることについて高い評価と敬意の言葉が送られました。

ボランティアの皆さまに改めて感謝申し上げます。

ボランティア感謝状贈呈式出席団体・個人

- 早島町婦人会様
- 早島町更生保護女性会様
- 早島町愛育委員会様
- 桜山会様
- 早島朗読ボランティア　福来朗様
- 倉敷東ライオンズクラブ様
- サークルトム様

健康一番 マラソン奮闘記
（高知龍馬マラソン2018編）

Kochi Ryoma Marathon
わざわざ高知で走ろう！

医事係　田中　貴大

さる2月18日、当院の事務職員2名で高知県のフルマラソン「高知龍馬マラソン2018」に参加してまいりました。

私は今大会初出場なのですが、以前参加したことのある方からはとてもいい大会と聞いており、大会を評価するサイトでもなかなか高得点だったため楽しみにしていた大会です。龍馬というだけに桂浜や太平洋沿岸を走るコースなのですが、私自身太平洋を見るのが初めてなこともあり、殊更に楽しみにしておりました。

当院と同じくNHOグループ内にあります他病院からも参加される方がおり、大会前日の受付後、宿泊させていただき大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

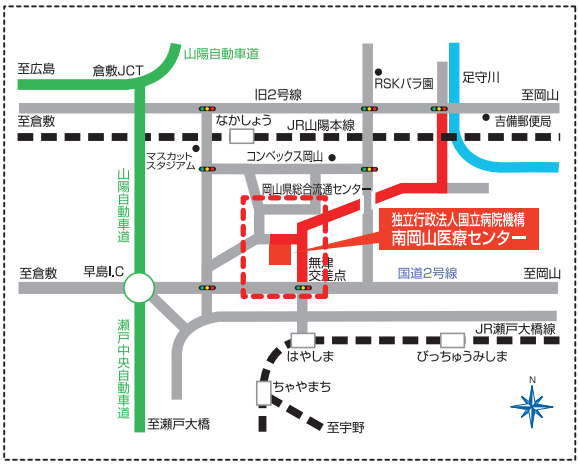
当日は朝こそ肌寒いですが、日中はマラソンするには暑すぎるほどの晴天になりました。まず高知の市街地･農業地帯を抜けるのですがこの間約20キロ、畑の真ん中を走る農道でさえほとんど応援が途切れなく休む(手を抜く)間もありませんでした。桂浜に抜ける手前には大会最大の難所、高低差50mの「浦戸大橋」が待ちうけます。ここはゆっくり歩きつつ登って行ったのですが、ふと見下ろすと少し怖くなるくらいの高さで、ちょっとした達成感がありました。

浦戸大橋を渡るとお待ちかねの太平洋です。穏やかな瀬戸内海とは全く異なり、どこまでも続いていくかのような海の景色はとても壮大です。坂本龍馬もこんな景色を見て世界に思いをはせたのではと感傷に浸りつつ、雲一つない晴天の中進んでいきました。

清流で名高い仁淀川で折り返し、残り5キロのところでゴールに向かうため内陸部へ入ります。ここで景色が海から山に変わり、ゴールが近づいている感じを一層引き立たせます。ゴールの運動公園なのですが、少し高台にあるため最後の最後で長い上り坂が待ち構えます。力を振り絞り登って行き、当院職員とも無事完走いたしました。

初高知龍馬マラソンの感想ですが、他の大会と比べても地元の人･スタッフの応援が力強いという印象でした。主要な道路を長時間通行止めにするためいろいろ負担が多いと思うのですが、それにもかかわらず愛されている大会なのだと、高評価なのもうなずけました。

応援が途切れない点もですが、高知マラソンは公式･私設共に給水所･給食所が多彩なのも大きな特徴です。スポーツドリンクやパン等は他の大会でもよくあるのですが、トマトやかつおめし･どろめ汁にごっくん馬路村、果ては食べられませんがよさこいの鳴子のストラップ等もコース上で配っており、走るだけで観光ができるくらいでした。遠方の大会は移動が大変ですが旅行気分で健康づくりもできる点がいいですね。完走後はいもけんぴや土佐文旦を片手に帰りました。

ここ数年で県内外、フル･ハーフ等いろいろな大会に参加していますが、選手名簿を見ると他の医療関係をはじめ様々な所属名が見受けられます。敷居が低くなるのは大変うれしいですが、みなさんけがなどには十分気をつけて走っていきましょう。

独立行政法人国立病院機構
南岡山医療センター
〒701-0304　岡山県都窪郡早島町早島4066
電　話(086)482−1121(代表)
F A X(086)482−3883
http://www.sokayama.jp／